

第7章 その他

I その他

1 環境への配慮について

本業務においては、札幌市環境マネジメントシステムに準じ、以下のとおり環境負荷低減に努めること。

- (1) 電気、水道、油、ガス等の使用にあたっては、極力節約に努めること。
- (2) ゴミ減量及びリサイクルに努めること。
- (3) 両面コピーの徹底やミスコピーを減らすことで、紙の使用量を減らすよう努めること。
- (4) 自動車等を使用する場合は、できるだけ環境負荷の少ない車両を使用し、アイドリングストップの実施など環境に配慮した運転を心がけること。
- (5) 業務に係る用品等は、札幌市グリーン購入ガイドラインに従い、極力ガイドライン指定品を使用するよう努めること。
- (6) 業務に関わる従業員に対し、札幌市の環境方針の理解及び業務と環境の関連について自覚を持つような働きかけを行うよう努めること。
- (7) 特定業務（設備機器の運転管理、毒物又は劇物の取扱い、特別管理産業排気物の保管又は処理業務）に従事する者は、それを遂行するために要求される十分な知識及び技能を備えていなければならない。

2 「サブキャッチ」の掲示について

- (1) 本業務において使用する業務中看板については、市民にわかりやすい下水道事業の情報発信のため、下記のとおり「サブキャッチ」を掲示するものとする。
- (2) 「サブキャッチ」の記載例
「サブキャッチ」：「快適な生活を守るため 下水管の診断をしています。」
 ：「快適な生活を守るため 下水管を直しています。」
 ：「快適な生活を守るため 下水管の清掃をしています。」
 ：「快適な生活を守るため 下水管の清掃・診断・修繕をしています。」

注) キャラクター・事業PR表示を行う場合は別看板で行うこと。

3 電子媒体による報告書の提出について

- (1) 各調査業務において、電子媒体（CD-R、DVD-R等）による報告書の提出の際には、業務中及び業務完了前にシステムチェックとウイルスチェックを実施したうえで提出すること。

4 個人情報の取扱いについて

- (1) 本業務の履行中に事故が発生した場合や地域住民等からの要望・苦情を受けた場合など個人情報の取扱いが発生した場合は、「個人情報の取扱いに関する特記事項」に基づき、業務監督員に報告するとともに個人情報の取扱いに係る安全管理措置実施申出書を提出すること。

II 判断基準表

判断基準表 1

判断基準表【取付管、公共ます】

番号	ラ ン ク		A	B	C	備 考
	調査項目					
1	取 付 管	損傷・外損	破損している (土砂が見える)	クラック	無	
2		たるみ	5cm以上 (取付管カメラ水没)	2~5cm未満	2cm未満	カメラヘッド径 5cmとして
3		勾配	逆勾配	—————	無	水の流下に対する 支障の有無
4		継目のズレ	ソケットからの脱落 土砂碎石の露出	管厚程度のズレ 及び隙間	管厚以内のズレ 及び隙間	
5		支管のズレ	本管からの脱落	本管と隙間あり	無	
6		木根	有	—————	無	木根が侵入 しているか
7		モルタル等	管径の20%以上	管径の20%未満	無	モルタル・ラード等 具体名で整理
8		横断管	有	—————	無	
9		老朽度	鉄筋が露出	粗骨材が露出	無	
10		浸入水	勢いよく出ている	ちよろちよろ程度	にじみ程度 又は無	
11	公 共 ま す	蓋	破 損	ヘアークラック 程 度	無	
12		上部	破 損	クラック	無	
13		埋まり	5~30cm	1~5cm	無	
14		突出	5~30cm	1~5cm	無	
16		目地のズレ	3cm以上 (土砂が見える)	1~3cm	良	
17		管口	破損又は隙間大 (土砂が見える)	隙間3cm未満	無	
特 記						

判断基準表【分水マンホール、浸透式下水道】

コード区分	ランク		A	B	C	備考
	調査項目					
1. 棒等障害物	マンホール内異物等		棒等障害物有		正常	
2. 路面との関係	凸凹, 埋まり(cm)					()内cm表示
	マンホールまわりの路面状況		はく離(舗装等)	ヒビワレ(ドーナツ状等)	良	
	レベルマンホール等(t+h cm)		ワレ、亀裂	メクレ、ボルトのゆるみ	〃	レベルマンホール、マンホールパック、スライドマンホール、フラットレベル
	車両又は歩行の支障度		有		無	
3. 鉄蓋	新型又は旧型			ウラ	ウラ ○	
	摩耗型		マークが見えない	へっているがマークが見える	無	
	亀裂		ワレ	ヒビ	〃	
	ガタつき		有		〃	
4. 金枠	損傷度		カケ	へり, 鉄蓋突出	〃	
5. 上絞部	〃		破損又は全体のクラック	一部のカケ, クラック	〃	
6. 直立管	〃		〃	〃	〃	
7. 下絞部	〃		〃	〃	〃	
8. 躯体	〃		〃	〃	〃	
9. 底部	インバート又はタメ式				〃	
	損傷度		破損		無	
10. 副管	〃		〃		〃	
11. 足掛	損傷度(不足数)		針金状又は不足	全周に腐食	〃	()不足数
12. 目地	程度(位置)		はく離欠損	ヒビワレ	良	()コードによる位置
13. ズレ	〃 (〃)		10cm<ズレ	3cm<ズレ<9cm	〃	〃
14. 浸入水	〃 (〃)		噴出	流入	にじみ又は無	〃
15. 管渠内	管渠の状態		破損、閉塞がある	多少の蛇行, 沈下	正常	
	副管の位置及び状態		〃		正常	
16. 特記						

判断基準表【分水マンホール】

区 分	ランク		A	B	C	備 考
	調査項目	損傷度				
1. 堰施設	堰 (コンクリート)	損傷度	破損又は 全体のクラック	一部か、クラック	無	
	堰板	"	破 損 (材質)		"	材質 ・FFU(合成木材) ・木材 ・角パイプ ・その他
	受板 (ステン)	"	全体のサビ	一部のサビ	"	
	板留金具 (ボルト類)	"	ゆるみ 全体のサビ	"	"	
	板受口 (支柱)	"	全体のサビ ガタ付き	"	"	
2. 遮水施設	遮水壁 (コンクリート)	損傷度	破損又は 全体のクラック	一部か、クラック	無	
	遮水板	"	破 損 (材質)		"	材質 ・FFU(合成木材) ・木材 ・角パイプ ・その他
	受板 (ステン)	"	全体のサビ	一部のサビ	"	
	板留金具 (ボルト類)	"	ゆるみ 全体のサビ	"	"	
	板受口 (支柱)	"	全体のサビ ガタ付き	一部のサビ	"	
3. 付帯施設	中間ステージ	損傷度	破 損	一部のかげ クラック	無	コンクリート
	階 段	"	破損又は 全体のクラック	"	"	コンクリート
	手すり	"	"	"	"	コンクリート
	転部防止柵	"	全体のサビ ガタ付き	一部のサビ	"	ステン
	グレーチング蓋	"	破 損		"	FRP
	その他	正 異	異 常 ()		正 常	名称()
4. その他		正 異	異 常 ()		正 常	名称()
5. 遮集管の状態	土砂厚		実測値	cm	・測定不能	
	水深		"	cm	"	
6. 分流管の状態	土砂厚		"	cm	"	
	水深		"	cm	"	
7. 特 記						

判断基準表【浸透式下水道】

区分	ランク		A	B	C	備考
	調査項目					
1. 路面状態	浸透式管渠上	沈下等	有(上・下)		無	マンホールを基点に上流か下流か
	浸透式周辺	〃	有		〃	
	浸透トレンチ上	〃	有(左・右)		〃	道路雨水ますを基点に民地を背面にして右側・左側
2. 浸透式管渠	角落し	損傷度	破 損	一部カケ	無	木 材
	固定金具	〃	ゆるみ 全体のサビ	一部のサビ	〃	
	浮上防止金具	〃	〃	〃	〃	
	角落し保管棚	〃	〃	〃	〃	
	土砂厚	程 度	管径の1/2以上	管径の1/2未満 ～1/10以上	良	
3. マンホール内	フラップゲート	正 異	異 常		正 常	フラップ付マンホール浸透式管渠合流点
4. 浸透ます	ます	有 無	無		有	
	ます蓋	損傷度	破 損		無	(材質)
	蓋留金具	〃	全体のサビ	一部のサビ	〃	ボルト類
	上 部	〃	破 損	一部カケ・クラック	〃	
	中間部	〃	〃	〃	〃	
	下 部	〃	〃	〃	〃	
	目 地	程 度 (位置)	はく離欠損	ヒビワレ	良	()位置
	ズ レ	〃	10cm<ズレ	3cm<ズレ<9cm	〃	()位置
	浸入水	〃	噴 出	流 入	にじみ又は無	()位置
	土砂状態	程 度	下部埋没	下部1/3以上埋没	良	
	導水管(VU)	損傷度	破 損		無	
	接 続 道路雨水ます	有 無	無		有	
	道路雨水ます 管口フィルター	〃	無または破損		〃	
	道路雨水ます 土砂状態	程 度	管口埋没	管口下より20cm以内	良	
5. 浸透トレンチ	接 続	有 無	無		有	
	道路雨水ます	損傷度	無または破損		〃	
	道路雨水ます 土砂状態	程 度	管口埋没	管口下より20cm以内	良	
6. その他		正 異	(異 常)		正 常	(名称)
7. 特 記						

判断基準表【吐口（ゲート無し）】

区分	ランク		A	B	C	備考
	調査項目					
1. 河川名	名称記入		川			
2. 放流口の障害物	流木等	阻害度	有 多い	有 少ない	無	
	転石	〃	〃	〃	〃	
	雑草	〃	〃	〃	〃	
	その他	〃	()	()	〃	(名称)
3. 河川との関係	放流口の土砂推積厚		_____ cm			実測値を記入
	放流口と河川水面との差		± _____ cm			実測値を記入
	河床の洗掘	有無	有		無	
4. 吐口の状態	護岸(コンクリ)	損傷度	破損又は全体のクラック	一部のカケ, クラック	無	
	翼壁	〃	〃	〃	〃	
	水叩き	〃	〃	〃	〃	
	放流管口	〃	〃	〃	〃	
5. 管渠内(放流管内)	管渠の状態		A	B	C	様式6の16による
	管径記入		()			単位 cm
	土砂厚		管径の1/2以上	管径の1/2未満 ~1/10以上	良	
6. 放流水	濁水	有無	有		無	
	油	〃	〃		〃	
	不明水	〃	()		〃	(名称)
7. その他	名板 札下表示 (ペンキ)	磨耗度	マークが見えない	減っているが マークが見える	無	
	点検用足掛	損傷度	針金状又は ()	全周に腐蝕 ヤセ	〃	(不足数)
	その他	正異	異常 ()		正常	(名称)
8. 特記						

判断基準表【人孔（路面、躯体等）】

項目			判定ランク					
			A	B	C	D	E	
ふた調査情報	耐荷重種別 (歩車道の場合)	車道	T-8	T-14	T-20	—	T-25	
		歩道	—	—	—	—	T-8、T-14 T-20、T-25	
	周辺路面の状態 (穴、クラックの損傷)		どちらもある状態	クラックあり、 かつ穴がない	どちらもないが、 受け枠と路面との間に 隙間ができています	—	なし	
	ふた・受け枠間 の段差	急勾配 受け構造	ふたの沈み	2mm ≤	—	—	—	< 2mm
			ふたの浮き	10mm ≤	—	—	—	< 10mm
		平受け構造・ 緩勾配受け構造	10mm ≤	—	—	—	—	< 10mm
	鉄蓋状態（磨耗） (模様高さH)	車道	表面の絵柄が 完全に消えている (≤2mm)	—	表面の絵柄が すりへっている (2~3mm)	磨耗なく錆肌無 (3mm<かつ錆肌無)	磨耗なく錆肌有 (3mm<かつ錆肌有)	
		歩道	表面の絵柄が 完全に消えている (≤2mm)	—	—	表面の絵柄が すりへっている (2~3mm)	磨耗なし (3mm<)	
	ガタつき		ある	—	—	—	なし	
	鉄蓋状態（破損・亀裂）		ある	—	—	—	なし	
	金枠状態ランク（損傷）		ある	—	—	—	なし	
	蓋腐食状態（鋳出し表示の消滅）		—	見えないほど発錆	—	見えるが少し発錆	なし	
	転落防止機能		機能なし	—	—	—	機能あり	
	浮上防止機能		支障あり	—	—	—	支障なし	
	ロック機能（平受）		機能しない	—	—	—	機能する	
開閉機能状態		人力では 開閉不能	勾配面の腐食に より開閉困難	食込み力増大に よる開閉困難	—	正常に 開閉可能		

部位	項目	判定ランク				
		A	B	C	E	
マンホール内調査情報	調整部	調整部状況	破損・欠落	ずれ・クラック	ずれ	なし
	斜壁部・ 継足管	腐食	鉄筋露出	骨材露出	表面の荒れ	なし
		破損	欠落・陥没	全体に亀裂	軽微な破損（A・B以外）	なし
		クラック	全体 (人孔全周、幅5mm以上)	部分的 (人孔半周、幅2~5mm以上)	軽微 (幅2mm未満)	なし
		隙間・ズレ	全体が脱却	一部が脱却	わずかの隙間・ズレ	なし
		浸入水	噴き出ている状態	流れている状態	にじんでいる状態	なし
		木根侵入	内径の50%以上	内径の10~50%以上	内径の10%未満	なし
		タルミ・滞水	内径の3/4以上	内径の1/2~3/4	内径の1/2未満	なし
	インバート	インバートがない	部分的な欠損	—	なし	
	直壁（管口含む）	腐食	鉄筋露出 (表面pH：1程度)	骨材露出 (表面pH：3未満)	表面の荒れ (表面pH：3以上5以下)	なし
		破損	欠落（陥没）	全体に亀裂	軽微な破損（A・B以外）	なし
		クラック	全体 (人孔全周、幅5mm以上)	部分的 (人孔半周、幅2~5mm以上)	軽微 (幅2mm未満)	なし
		隙間・ズレ	全体が脱却	一部が脱却	わずかの隙間・ズレ	なし
		浸入水	噴き出ている状態	流れている状態	にじんでいる状態	なし
		木根侵入	内径の50%以上	内径の10~50%以上	内径の10%未満	なし
その他	足掛金具	欠損・欠落	鉄筋が細くなっている	錆の発生	なし	

※ゴシック体で記載の判定項目は、札幌市独自の項目。それ以外は下水道維持管理指針（2014年版）に準拠。

判断基準表【管路（鉄筋コンクリート管）】

ランク		A	B	C
項目				
老朽度 (腐食・劣化)		鉄筋露出状態	骨材露出状態	表面が荒れた状態
たるみ	内径700mm未満	内径以上	内径の1/2以上	内径の1/2未満
	内径700mm以上 1650mm未満	内径の1/2以上	内径の1/4以上	内径の1/4未満
	内径1650mm以上	内径の1/4以上	内径の1/8以上	内径の1/8未満
管の破損及び 軸方向クラック		欠落 外損に伴う土砂流入・土砂露出 不要取付管口の閉塞不良	外損に伴う土砂露出の可能性 不要取付管口の暫定的閉塞 (麻袋等)	管壁の剥離 不要取付管口の閉塞済み
		軸方向のクラックで幅5mm以上	軸方向のクラックで幅2mm以上	軸方向のクラックで幅2mm未満
円周方向クラック		円周方向のクラックで幅5mm 以上	円周方向のクラックで幅2mm 以上	円周方向のクラックで幅2mm 未満
目地ズレ		土砂流入・土砂露出 脱却 〈いんろう管〉土砂流入・土砂 露出	70mm以上(脱却なし) 〈いんろう管〉—	70mm未満 〈いんろう管〉内目地がない
浸入水		噴き出ている 土砂流入を伴う	流れている	にじんでいる 水垢が付着している
モルタル付着		内径の3割以上	内径の1割以上	内径の1割未満
油脂の付着		内径の1/2以上閉塞	内径の1/2未満閉塞	—
木 根		内径の1/2以上閉塞	内径の1/2未満閉塞	—
取付管突出		本管内径の1/2以上	本管内径の1/10以上	本管内径の1/10未満
取付管接合部		土砂流入 土砂露出 詰まる危険性あり	破損あり(土砂露出の可能性) 詰まる可能性あり	防護・補修あり ソケットなし
だ 行		—	管きよ断面積に対して 50%以上のだ行	管きよ断面積に対して 50%未満のだ行
横断管 (貫通管)		ガス爆発の危険・漏水 管きよ断面積に対し20%以上の 閉塞	管きよ断面積に対し10%以上の 閉塞 10%未満の閉塞かつ横断管が 防護されていないで露出	管きよ断面積に対し10%未満の 閉塞かつ横断管が十分な防護が されて露出 (管は直接露出してない)
副 管		土砂流入・土砂露出 本管内径の1/5以上の突出	詰まっている 本管内径の1/10以上の突出	副管口のズレ 本管内径の1/10未満の突出
取付管の異常		上記異常項目の判断基準に準ずる		
既設 内面 修繕 箇所	浸入水	噴き出ている 土砂流入を伴う	流れている	にじんでいる 水垢が付着している
	剥 離	一辺が15cm以上	一辺が15cm未満～5cm以上	一辺が5cm未満
	切れ・カケ	一辺が15cm以上	一辺が15cm未満～5cm以上	一辺が5cm未満

判断基準表【管路（硬質塩化ビニル管）】

ランク		A	B	C
項目	内径800mm以下	内径以上	内径の1/2以上	内径の1/2未満
たるみ				
管の破損及び軸方向クラック	亀甲状に割れている 軸方向クラック	—	—	—
円周方向クラック	円周方向のクラックで幅5mm以上	円周方向のクラックで幅2mm以上	円周方向のクラックで幅2mm未満	
目地ズレ	脱却	接合長さの1/2以上	接合長さの1/2未満	
偏平	たわみ率15%以上の偏平	たわみ率5%以上の偏平	—	
変形（内面に突出し）	本管内径の1/10以上内面に突出 材料の白化を伴う	本管内径の1/10未満内面に突出	—	
浸入水	噴き出ている 土砂流入を伴う	流れている	にじんでいる 水垢が付着している	
モルタル付着	内径の3割以上	内径の1割以上	内径の1割未満	
油脂の付着	内径の1/2以上閉塞	内径の1/2未満閉塞	—	
木根	内径の1/2以上閉塞	内径の1/2未満閉塞	—	
取付管突出	本管内径の1/2以上	本管内径の1/10以上	本管内径の1/10未満	
取付管接合部	土砂流入 土砂露出 詰まる危険性あり	破損あり（土砂露出の可能性） 詰まる可能性あり	防護・補修あり ソケットなし	
だ行	—	管きよ断面積に対して 50%以上のだ行	管きよ断面積に対して 50%未満のだ行	
横断管（貫通管）	ガス爆発の危険・漏水 管きよ断面積に対し20%以上の閉塞	管きよ断面積に対し10%以上の閉塞 10%未満の閉塞かつ横断管が防護されていないで露出	管きよ断面積に対し10%未満の閉塞かつ横断管が十分な防護がされて露出 （管は直接露出してない）	
副管	割れている	詰まっている	—	
取付管の異常	上記異常項目の判断基準に準ずる			
既設内面修繕か所	浸入水	噴き出ている 土砂流入を伴う	流れている	にじんでいる 水垢が付着している
	剥離	一辺が15cm以上	一辺が15cm未満～5cm以上	一辺が5cm未満
	切れ・カケ	一辺が15cm以上	一辺が15cm未満～5cm以上	一辺が5cm未満

主任技術者の資格

主任技術者の資格要件は、次のいずれかによるものとする。

- 1 本業務に対応する建設業法の許可業種（土木業）に係る建設業法第 26 条に定める主任技術者となりうる国家資格を有する者
「建設機械施工管理技士」（建設機械施工技士を含む。1 級又は 2 級。ただし 2 級は第 1 種から 6 種に限る。）
「土木施工管理技士」（1 級又は 2 級。ただし、2 級の種別は土木に限る。）
「技術士」（上下水道部門（選択科目「下水道」）、建設部門又は総合技術監理部門（選択科目「建設」）に限る。）
- 2 公益社団法人日本下水道管路管理業協会による「下水道管路管理技士（総合、主任、専門）」の登録を受けた者
- 3 地方共同法人日本下水道事業団による「下水道技術検定（第 1 種、第 2 種、第 3 種）」又は「下水道管理技術認定（管路施設）」の合格者

排水設備等工事しゅん工検査確認事項（別表1）

別紙A-2

★印はしゅん工検査時の必須確認項目

区分	項目		確認内容	
★公共下水道への接続	ます接合	コンクリートます	・縦断方向の場合は管底接続、これ以外はインバート上とする。インバートの切り盛りは行わない ・排水管はます内壁面にそろえる ・接続箇所の空隙はます内面及び外面をモルタルで目地を施す	
		塩化ビニルます	・ますの既成受け口に接続	
	本管接合	取付管径及び材質	・本管径250mm以上—取付管は100mm～200mm以内	
			・本管径200mm以下—取付管は100mm～150mm以内	
			・市街化調整区域の取付管は100mmとする。 ・硬質塩化ビニル管 JSWAS K1規格 ゴム輪受口（自在支管、曲管を含む）	
ます	・規格は下水道設計標準図を基本とし、又はその規格及び機能と同等以上 ・汚水ますはインバート仕上げとし雨水ますは15cm以上の泥溜めを設ける			
宅地内排水設備	★汚水雨水の分離		・分流式地域では汚水及び雨水排水を適正に分離し、それぞれ専用管にて排出する	
	ます設置	規格機能	・汚水ますはインバート仕上げとし雨水ますは15cm以上の泥溜めを設ける	
		材質と深さ	・塩化ビニル ます内径150mm - 深さ1100mmまで ます内径200～350mm - 深さ2000mmまで ・コンクリート ます内径300～400mm - 深さ1100mmまで ます内径400～500mm - 深さ1500mmまで ます内径600～800mm - 深さ2000mmまで	
		設置箇所	・家屋からの各排水口、屈曲点、合流点 ・管径、勾配、管材量及び流路の方向の異なる箇所 ・直線部において排水管径の120倍以内の箇所	
	排水管布設	材質	・硬質塩化ビニル管、鉄筋コンクリート管、ポリエチレン管、排水用铸铁管	
		管径と勾配	本管	・内径 100 mm以上 1/100 以上 ・内径 250 mm以上 最少流速 1.0m/秒以上を得られること
			枝管	・内径 75mm 以上 1/100 以上
	深さ	・最低土かぶり30cm以上とし、構造等で不足する場合や露出配管の場合は断熱防護する		
	トラップ	設置箇所	・必要な場合は排水口ますに直結して設置する	
		封水深	・50mm以上100mm以下	
材質と口径		・硬質塩化ビニル又は同等以上、75mm以上		
★デイスポージ排水処理システム、グリース阻集器			・下水道条例施行規則第5条3、4号の基準による	
★半地下構造物、工事用湧水の沈砂槽			・下水道条例施行規則第5条4号の基準による	
★条例第10条行為の制限関連の設備			- - -	
★条例第5条3の除害施設関連の設備			- - -	
★助成制度を利用する設備			- - -	
★工事分担金、接続負担金関連の設備			・下水道条例第17の2、第17の3、同施行規則第30条によるなど必要な対応を行う	

※「排水設備の設置又は改築の確認に係る審査基準(平成26年4月1日改定)」に基づく

まず接続確認工フロー

